
中 2 病患者が異世界に行って完治するまで

もこた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中2病患者が異世界に行って完治するまで

【Nコード】

N8090Y

【作者名】

もこた

【あらすじ】

異世界にいつてもらうよ

少女ティファルにより人生が壊された青年・・・白神 迅。

そして異世界で生き延びるために渡されたたった一つ的能力・・・
・・・【create】

殺伐とし荒廃した世界で必死に生き抜く青年の伝記である。

加藤悠太の妄想を含んでいます。

01 厨2患者の明晰夢（前書き）

皆様始めまして。

今回初めてこの作品を投稿させて頂くもこたです。

まだ文章を作ることに慣れてないので

誤字・脱字や意味不明、などが多々あると思います。

その時はご指摘していただけると嬉しいです。

それではこれから生暖かい目で見守ってください。

どうぞよろしく願います。

01 厨2患者の明晰夢

ある末期中二病患者が夢を見た。

夜空が綺麗でどこかの美術家が描いた神秘的な世界に少女が白いイ
スに腰を掛けていて紅茶を飲んでいた。

「まあ見てないで座ってくれ、少しばかり話があるから」

「え？・・・あ、・・・ああ・・・」

「私の名前はティファル、君の名前は・・・」

「・・・白神だ・・・白神迅という・・・」

ティファルはポカンと沈黙した後くすくすと笑い。

「ああ悪い悪い、じゃあ話を続けようか？えっと・・・迅君？、
・単刀直入に言うけど君に少しばかり・・・あー・・・迅
君にとつてはいい話かも知れないね」

「・・・？、つて言うത്？」

「仁君・・・君に異世界に行つて貰いたい、てか行つて貰うよ」
今度は迅がポカンとした表情になつて数十秒程度経つた頃に。

「・・・あ・・・はっはは・・・、今夜の明晰夢はえらくリアル
ティがあるな・・・！」

「まあそうとられても仕方が無いだろ、だけど遅かれ早かれ迅君は
気づく事になるよ」

少し考え込むような仕草をとつた後。

「行くつつつたつて異世界に何しにいきやいいんだよ？」

「それも遅かれ早かれってことで、じゃあそろそろだから、頑張
てね？」

そして最後に嫌味ったらしく笑い…………。

「加藤悠太君」

「んな！？…………それ…………俺の…………なま…………え…………
」

そこで俺の夢は終わった…………。

実に心地の悪い夢…………。

夢から覚めたその世界は実に……………気分の良い世界だった。

02 中2病者の初めての戦闘（前書き）

いきなり悠太君が武器初心者とは思えない動きをしています・・・。

自分の表現力の無さに号泣しました。

02 中2病者の初めての戦闘

意識が朦朧とする中で悠太は。

「とりま今北産業を自分に……」

1.
●
夢

2.
少女

3・強制異世界

「うん、イミワカンネ、つか夢なら覚めたらいつも通りの心地良いベッドの中で包まってんだろ」

必死に自分に言い聞かせる。

もちろん数匹のわんちゃん（どう見てもオオカミさんです本当にありり）が俺の周りを徘徊する姿なんて見えません。

スンスン・・・スンスン・・・

オオカミが自分の体のおいを嗅ぎどうやら食せる物かを定めてるらしい。

「……（やべえやべえええ！！！！、なにになに！？俺はこのまま才才カミの餌になるのか！？、何だよ！作者！！前回の話の最後に気分の良い世界って書いてあつたろ！！、なにいきなり殺させようとしてんだよ！！）」

こう誰に向けたかわからない悪態を心につきながらもしっかりと死んだふりを通そうとするも。

「ああもう！！つかえねえええ！！・・・って？」

携帯電話がチカチカと光っている、この状況で確認してる余裕は無いが送信者を見た瞬間に受信BOXを見る。

From
ティファール

Sub 異世界による身体能力補正と能力追加について

本文

身体能力補正について

正直に言うとは補正は無いよ、頑張れ（＾＾）

「ティファルつかええねええええ！……！！、てか顔文字書くなよ！むかつくな……！」

下にもまだ文が続いているので高速で矢印の下を押しまくる。

能力について

今回白神（笑）君に用意させてもらった能力はひとつ【creat

まあ呼んで字のごとく創造するっていうことが出来る能力ね。

頭の中で構想してそれを実体化させるってものなんだけど……これだけ見たらどっかのアニメの投影なんだけどね〜

つとなんか注意事項あったはずんだけど忘れちゃった、思い出したらまた連絡するよ。

「ティファル……なんつーか……適当すぎんだろ……、
 だけどこれなら……！」

頭の中で大まかな構想をする……。

形は日本刀……刀身は真っ黒で……ほとんどの物が切れるような刃。

簡単な物になってしまったがその場しのぎには十分使えるほどの武器を頭の中で作り上げる。

それを両手で空を握った後に実体化させる……少し手間取ったがしっかりと握っている。

今はまだ薄っすらとしか見えないがだんだんとそれは姿を見せる。

「本当に出てきた……、よ……よし……」

深呼吸をした後、口元を吊り上げて無理に少しだけ不気味に笑い……。

「さあ……犬っころ……俺の闇の餌食になりな……」

目の前にいたオオカミにその異常なまでに軽い刀を振り下ろす。

黒い刀身はオオカミの胴体を切りつける、そしてそこから流れ出るように血が噴出す。

キャンイン！

仲間がやられたことによりその他の仲間たちがそろって飛び掛ってくる。

まずは目の前にいる二匹。

「連閃……五月雨……」

素早く一匹目を縦に両断した後、すぐさま一步後ろに下がり居合いの姿勢を取り二匹目を切り捨てる。

しかしそんなことをしていると後ろから襲い掛かってくる三匹に意識が行くはずも無く。

「後ろは無理だろツ・・・!!」
背中への攻撃を覚悟した瞬間。

「ウォーターガン!!」

すぐ後ろで水が勢いよく飛び散りオオカミ三匹が吹っ飛んでいくの
が見える。

ギャウン!!

「いや、また変なのが森に迷い込んだね」

「・・・だ・・・誰だ・・・?」

そこに立っていたのは真っ青の髪の毛に凜とした顔つきをした女性
が立っていた。

「誰だ?はないでしょ?、人の森に勝手に入ってきておいて」

「あ・・・ここってあなたの森だったの?、それはすまないなす
ぐここから立ち去るとしよう」

実のところ逃げただけだった、いきなり水を高速で発射して生物
を飛ばすような人物と関わりたくないだけだった。

「そっちは森の最奥で私の家があるところよ?」

「・・・」

黙って反対方向に進むと。

「そっちは入ったら絶対に抜けられない毒沼があるけど?」

「・・・抜け道を・・・教えてくれないか・・・」

「つぶつぶ、いいわ、それよりあなた血が出てるみたいけど」

「ああ、さっき噛まれた時のやつ?」

「もしかしたら病気もちのウルフだったかも知れないけど私の家で
調べとく?」

悠太は少しの間を空けずに、ハッキリと。

「よろしくお願いします!!」

「あなた面白いのね、私はユアスっていうの、ユアス・ケルネイトよ」

「かと……白神迅という……」

間違って本名を出しそうになり慌てて言い直した。

「?、変わった名前ね?、これからよろしくね迅」

「ああ、よろしく頼む」

二人は握手をした後にユアスの家へと向かった。

悠太はこの後この世界で生きていくことがどれだけ困難な事を思い知ることになった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8090y/>

中2病患者が異世界に行って完治するまで

2011年11月24日17時57分発行